



熱心に技術向上に取り組む「きらきら星部会員」

## 初の特産物生産組織を結成

現地栽培試験と市場評価の結果を踏まえ、県内の鉢花生産者組織である栃木県鉢物研究会に向け「きらきら星」の品種説明を行い、栽培希望者を募った。その結果、16名から希望の回答を得た。品種のブランド化

を目指す上では、生産者全員の品質を揃えることが重要であることから、農業試験場をはじめ、県関係部署による組織化に向けた働きかけを行った。そして、平成23年6月に設立総会が開催され、「栃木県鉢物研究会きらきら星部会」が誕生した。品質を揃え、出荷規格を統一する取り組みは、鉢物生産組織としては初

めてであった。親株からの挿し木による増殖が開始され、「きらきら星」の生産が動き始めた。

## ブランド化に向けて

きらきら星部会では、栽培特性を把握するため、栽培技術の習得と規格品作りに向けて、農業試験場や現地での勉強会を熱心に重ねてきた。これまで長年、あじさいを作り続けてきたベテランの生産者は、他の会員に自分の技術を惜しみなく教えてくれた。ブランドあじさい生産に向け、花色を揃えるための専用培養土の使用、肥培管理の統一、また、きらきら星のポップとラベルによるPRなど、生産出荷への準備が整った。県では生産振興課が中心となり、オランダで開催される世界最大の花の展覧会であるフロリアードへの出品が実現し、平成24年6月「きらきら星」が世界の関係者の評価を受けることになった。検疫の関係上、鉢物ではなく切り花の出品となったが、品評会の得点は10点満点のところ8・7点と高い得点を得ることができ、優れた品種であることが認められた。

平成25年4月、本格的な出荷が開始された。市場や販売店の評価も高く、ブランド化への第一歩を踏み出した。

## 新品種育成に高まる期待

平成25年7月、きらきら星部会から農業試験場へ次なる新品種育成の期待とその支援のために試験機器の寄贈を受けた。県民サービスを目的とした県機関への寄贈は異例である。花き研究室では、きらきら星のシリーズ化の期待に応えるべく、新たな交配と選抜技術の効率化に向けた取り組みを開始し、今後の品種開発を加速させた。

## 「あなたの願いが叶う」

八重咲き覆輪品種を生み出すという願いは、農業試験場、生産者、市場関係者、県機関など多くの関係者らの熱意と協力によって叶えることができた。「きらきら星」のラベルには、「あなたの願いがきつと叶う」の言葉がある。この記事が読者の皆様の目に届くころ、美しく八重に輝く「きらきら星」が店先に並ぶことを期待してほしい。